

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201390		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホームなごみ ①ユニット		
所在地	和歌山県岩出市水栖644-1		
自己評価作成日	令和2年1月14日	評価結果市町村受理日	令和2年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3071201390-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの理念“誰もが利用したいと思えるグループホーム、共に笑顔で暮らす”を大切に、利用者が安心して過ごして頂けるグループホームを目指しています。
ご利用者に寄り添い、日々の暮らしが居心地良く楽しみのある日常生活を送って頂けるような支援を心掛けています。
高齢や疾患による状態、体調変化に早期発見し、ご家族や主治医と連携を取り、早期対応に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「誰もが利用したいと思えるグループホームを目指します」と掲げた理念の基、一人ひとりの思いや暮らしのリズムを大切にされた支援に努めています。職員は会議や日々の中で利用者のより良い暮らしに向けて多くの意見を出し合い検討したり、定期的な研修や会議の中で多くの学ぶ機会を持ち、利用者への丁寧な言葉掛けや対応については全職員に浸透しており、理念に沿った支援となるよう取り組んでいます。また地域とも良好な関係を築いており、祭り等の行事や隣接する法人のコミュニティサロンは多くの地域活動に利用されており、サロンで行われる踊りや楽器演奏、文化祭等様々な行事に声掛けがあり、利用者と参加し交流を楽しんでいます。また食事では一部外注していますが定期的に鍋料理や赤飯、たこ焼き等を利用者と作り職員と共に食べる事も大切にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念を唱和し、スタッフ全員が理念を共有しケアに繋げている。	法人理念を基に職員間で話し合い分りやすい独自の理念を掲げ、更に毎年理念を踏まえた年間目標を決め、フロアに掲示すると共に日々意識できるよう唱和しています。ケアを考える際には理念を念頭に置き、不適切ケアなどが生じた際には会議やミーティングの中で「ホームを利用したいと思えるか」などを職員に問いかけ、理念に立ち戻りながら実践に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の溝掃除に参加したり、夏祭りへのお声かけを頂き、又、中学生の体験学習の受入を行い地域の方々との交流に努めている。毎回、地域消防団の立ち会い協力で消防訓練を行っている。	地域の夏秋の祭りには区長から案内やチケットが届き出店での買い物等を楽しんだり、子ども神輿の見物等に行っています。また敬老会等のホーム行事には踊りや歌等のボランティアの来訪や中学生の体験学習を受け入れています。また隣接する法人のコミュニティーサロンは多くの地域活動に利用されており、文化祭や楽器演奏、物作り教室等に利用者と共に参加し交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、グループホーム内を見学して頂いたり認知症の方への支援について話し合いや情報交換することで理解を深めて頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニットごとの活動報告でご利用者へのサービスの状況や職員の研修報告等を行い、参加者の方から意見や助言を受け、サービスの向上に繋げるように話し合っている。	会議は隔月に開催し自治会区長や副区長、複数の民生委員、市職員の参加を得ており、家族は便りや来訪時に案内し参加を得る事もあります。写真を見てもらい利用者の状況や行事、事故報告等を行ったり、言葉や薬等の身体拘束についても報告し、参加者の理解に繋がったり、地域行事の案内をもらい祭り等に利用者と参加しており、地域の方の理解や交流に繋がる有意義な会議となっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回出席して頂き事業所の実情やサービスの取り組みを理解して頂いている。又機会ある毎に相談させて頂いている。	運営推進会議の案内状は直接市の窓口へ届け、毎回市職員の参加を得ており、分からない事は会議後に相談しています。また感染症の注意喚起や研修案内が届き、研修については内容により職員が参加をしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、ミーティング時に報告を行い、事業所内研修で身体拘束をしないケアについて学び、話し合い、取り組んでいる。又、2ヶ月に1度の運営推進会議で身体拘束について発表、報告を毎回行っている。	年に2回身体拘束に関する内部研修や外部研修に参加し、会議時に伝達しています。玄関やテラスは鍵を掛けず見守りや付き添いを行っており言葉による拘束については職員に浸透しています。また迷った際の職員の質問にはその都度分りやすく説明し、多くの学びの機会を作っています。家族の了承の基リスク回避の為に離床センサーについては定期的に必要性を検討しています。		

グループホームなごみ ①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、ミーティング時に報告を行い、事業所内研修で高齢者虐待防止について学び、話し合い、取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、以前おられ制度についても理解している。又研修にも参加し、学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書について契約時に十分説明を行い理解を得ている。又、変更事項があるときには必ず同意書を交わし納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の思いやご家族の要望を受け止めケアに繋げ、事業所で対応出来ることは反映させるように努めている。	利用者の要望は日々の関わりの中で聴き、散歩等に出かけています。家族の意見は面会時や年に1度行う家族会で意見を聞く時間を設けており、家族の要望を受け足の浮腫対策に日々の体操を工夫したり散歩の機会を増やす等の支援に繋がっています。また家族へは毎月本人の様子や医療等について報告し、何かあればその都度連絡を取っており信頼関係を築くよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも職員の意見を聞く機会を作り、又日頃からコミュニケーションを図るようにしている。	職員の意見や提案は日々業務の中で聴いており、月に1度の正職員会議やその後に行うフロア毎のケア会議では事前に意見を募り話し合っています。日々の中で話し合い決まった内容については口頭や申し送りノートで共有したり、月毎の行事は担当者を決めており主体的に考え実施しています。また年2回の面談や職員の様子を見て随時声をかけ話を聞いたり相談に乗っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、職員が目標を持って働ける環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内の研修に職員全員が参加出来る機会を作るように努めている。毎月のホーム内研修内容を職員全員が担当し、発表、勉強している。		

グループホームなごみ ①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム4事業所の交流会を行い、ご利用者、職員共に交流を深めている。又、2ヶ月毎にリーダー会議を開催し、活動報告や問題点等の検討、意見交換を行い、お互いのケアを見直す機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を聴く機会を作りご本人の思いや状態を把握し、安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを十分理解し、不安に思っている事や要望等話し合う時間を持ち、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に合わせ、又、ご家族のニーズを受け止めサービスを提供するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意な事や出来る事を探り家事等に参加して頂くなどし、共に生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と家族の関係性を大切にし、自由に外出したり面会して頂く事や受診への付き添い等でご利用者を共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への受診や馴染みの場所へ出かける等、関係が途切れないよう支援に努めている。	友人や親戚などの来訪時はゆっくり過ごせるよう配慮し、居室で持参したおやつなどを一緒に食べる方もいます。職員が付き添い定期的に自宅へ郵便物を取りに行ったり、初詣には利用者の馴染みの神社へ行っています。また法人が年賀状や暑中見舞いの葉書を準備し、職員が支援しながら利用者は馴染みの方へ出し関わりが途切れないよう支援しています。また家族と一緒に馴染みのスーパーや美容院へ行く方もあり、家族の協力も得ながら支援をしています。	

グループホームなごみ ①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や趣味を把握し、利用者同士良い関係が保てるよう、時には間に入り声を掛けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた後も面会に行き、職員やご家族の方との関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から好きな事や過ごし方等を把握し楽しめる環境作りに努めている。困難な場合はご家族からも情報を得ています。	入居に向けて本人や家族と面談し希望や生活歴、趣味嗜好等を聞いたり、以前の施設等からの情報を得て思いの把握に繋げています。日々の中では職員が聞いた思いや表情等から汲み取った思いを個人記録に残し共有したり、把握が困難な場合は家族にも聞き、ケア会議で検討しながら思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話から生活歴や思いをくみ取るよう心掛けている。入居時にセンター方式に記入して頂きご本人の情報や生活歴をご家族からも情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、一日の流れから一人ひとりの状況や状態を把握し、変化があればチームで共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の思いを毎月のケース会議で一人ひとりの課題について全員で検討し、介護計画に反映させ思いに添った計画を作成している。	本人の意向や家族の来訪時に本人の状況説明と共に支援の方針などを伝え家族の意向を聞き介護計画を作成しています。毎月のケア会議では全利用者について変化が無いかを確認し、通常は6ヶ月毎に計画を評価し見直しています。見直しに向けてはケア会議の中で全職員で意見を出し合いアセスメントを行っています。また必要に応じて往診時に聞いた医師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の流れ、生活状況を個々に記録している。情報を申し送り、気づきなど職員で共有し、介護計画やケアの実践に活かしている。		

グループホームなごみ ①ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて、日々の過ごし方や通院、外食、買い物、散髪等の支援を相談し行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生の職場体験受入や地域の夏祭り等に参加したり、地域の消防団の方と消防訓練を行ったりボランティアの方に慰問に来て頂いたり地域交流に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診うあ往診で入居前と変わらない医療を受けられている。専門医受診が必要な場合はご家族に相談し受診している。ご家族や職員共、受診時の情報共有をしている。	これまでのかかりつけ医を継続する事を基本的に個々の間隔で受診したり往診を受けています。専門医を含めて受診は家族が行い、バイタル表と共に利用者の状況を家族や時には直接医師に伝え、家族から報告を受け、家族が行けない場合は職員が付き添っています。歯科については必要時に往診を受けています。また体調不良時などは法人の看護師に相談し対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携を取り、ご利用者の状態が変化した時等、情報を伝え相談しながら健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはご家族と相談しながら病院関係者に日常の様子など情報提供し、入院中は頻繁に見舞い、状態や経過についてご家族や病院関係者に様子を伺い早期退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の際には早い段階からご家族や医師と相談し、身体的機能低下に伴い事業所で出来るケアを説明し方針を共有し支援している。	契約時にホームでは看取り支援は行っていない事を伝え、法人の他施設への転居や病院を紹介する事などを伝え了承を得ています。食事が摂れなくなったり、医療が必要となった場合は今後について家族と相談し、家族と点滴などの通院を行いながら過ごす方もおり、家族と協力し連絡を密に取り合いながらできる限り長くホームで過ごせるよう支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修や講習会に参加、ホーム内研修を行い、急変時や事故発生時に対応できるよう努めている。		

グループホームなごみ ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団立ち会い協力を得て避難訓練や消火器やAEDの使い方、避難経路の確認を行っている。緊急時の連絡体制により応援要請し早期対応できるよう取り組んでいる。ホーム内で災害ビデオ研修も行っている。	年に2回主に夜間想定訓練を行い、1度は消防署や消防団、区長などの参加を得て通報や避難誘導などの訓練を実施しています。独自でも同じ内容を一連の流れに沿って行い、また災害のビデオ研修を行っています。ランタンやカセットコンロ、簡易トイレなどを準備しており、備蓄については法人と検討を予定しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しさりげない声かけや丁寧な介助を心掛けている。	接遇マナーや認知症等の法人研修を受けホームで伝達したり、ホーム内研修は全職員参加の下行っています。日頃は丁寧な言葉遣いを心がけ、トイレ等の声掛けの際は周りに配慮をする等基本的な事を大切にしており、不適切な対応が見られた場合はその都度注意しています。また同性介助の意思表示がある場合は意向に添っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなくご利用者が選択しやすい環境作りをしている。意思表示の難しい方には表情や様子から読み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の気持ちに寄り添いその日の過ごし方を個々のペースに合わせ個性を大切にした支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みの衣服と一緒に選んだり、身だしなみを整えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や誕生日では旬の物や好みの物を用意している。片付けはご利用者と職員と一緒に出来る範囲で行っている。	職員体制が厳しい現在はご飯と汁物はホームで作し、副食は届いた物をき温めて提供しており、弁当などを持参した職員も一緒に食卓に着き談笑しながら食事を摂っています。お節料理などの行事食や新年会の蟹すき、肉料理や赤飯、たこ焼きなど定期的に利用者と一緒に食事を作り楽しんでもらっています。また寿司の出前や少人数で喫茶等に出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は個別に記録している。嚥下状態が低下されているご利用者には刻み食も対応している。		

グループホームなごみ ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の状態を把握し口腔ケアの声掛けし支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録から個々の排泄パターンやサインを把握し定期的にトイレ誘導に声掛けしている。	各居室にトイレの設備があり、記録を基に個々の排泄リズムを把握したり、排泄のサインなどを見ながらトイレへの声掛けや案内をしています。病院からおむつを使用して退院となった場合は、元の状態に戻るよう支援しほとんどの方が早期に改善しています。また夜間は大きめのパッドの使用や本人の思いを大切に違和感のない排泄用品を選択するなど個々に合わせた支援を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を取り入れ、水分摂取もして頂いている。定期的に主治医に相談し薬を調整して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調、バイタルを確認してご本人の意向を尊重し入浴して頂く。拒否される場合は声掛けや誘導の仕方を考え入浴を楽しめるよう支援している。	隔日の入浴を基本に希望を聞き日中の入りたい時間に入れるよう支援し、希望により毎日入る方や一番風呂、自身で入浴日を決める方もおり、希望に合わせて支援しています。入浴拒否の方はほとんど無く、好みのボディーソープを使用したり、時には柚子や林檎等の入浴剤を用い、職員とマンツーマンで個々のペースで入れるよう支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調をみながら睡眠状況も把握して安心して休まれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を職員全員が服薬管理表で確認を行い服薬時再度確認し、状態が変わった時には主治医を受診し、薬の変更があれば申し送りノート、朝礼で伝達を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ、食事の取り分けや食器洗いなど皆で協力しながら楽しんで行えるよう以遠している。塗り絵や貼り絵、編み物等楽しんで頂けるよう支援している。		

グループホームなごみ ①ユニット

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添えるようご家族とも協力し、外食、買い物に出掛けたりしている。	気候の良い時期は散歩やドライブ、広いテラスで花の水やりや日光浴などを行っています。全員で馴染みの神社への初詣や桜の花見に出かけたり、少人数でドライブを兼ねて和歌山の観光地巡りや桃の花見、紅葉狩り、有名社寺への遠足などに出かけています。また祭りやコミュニティーサロンで行われる地域行事にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は預からず買い物分は立て替えして月のご利用料金と一緒に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを書いて頂ける様支援している。ご希望があればご家族、ご友人に電話をかけられたり、ご家族からの電話も取り付いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度を調整している。玄関やフロアー、個々の居室前に壁飾りや折紙等で季節に合わせた飾り付けをしている。	広々としたフロアは蘭などの観葉植物を置き、小上がりの和室には雛人形を飾ったり、裏庭の桜の木や広いテラスに植えられた季節の花からも季節を感じながら過ごす事ができます。利用者の相性に配慮して座る場所を決めたり、寛いでテレビを見られる場所や少し離れた場所など多くのソファや椅子を置き、好みの場所を選べるよう配慮をしています。また感染を予防できる空気清浄機や加湿器を置き過ごしやすい環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の気の合う方を考慮しテーブルやソファでゆっくりくつろげるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や置物を持ち込んで頂き安心して過ごして頂けるように努めている。	各居室には洗面やトイレ、クローゼットが備え付けられ、利用者は自宅から愛用しているドレッサーやテレビなどを持参し過ごしやすいよう配置したり、使い慣れた毛布やアルバム、好きなぬいぐるみなども持参しています。毎日ドレッサーで身だしなみを整える方やテレビで相撲や野球を観戦する方もおり、一人ひとりが寛いで過ごせる居室となるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを必要な場所に設置し段差をなくし、環境整備をし安全に過ごして頂けるようしている。		